

林産だより

【題字】 鳳翔会主宰 塩山重夫 書

平成8年5月 Vol.34

発行：兵庫県立丹波年輪の里（林産指導課）

〒669-33 氷上郡柏原町田路102-3

☎0795-73-0725 fax0795-73-0727

「木の家づくり」特集

平成7年度『林業白書』では、「森林の適正な管理や国土保全には林業、木材産業、とりわけ川下の木材産業の活性化は不可欠」、また、「林業は木材産業があつてはじめて活動を継続できる」、との視点が明確に打ち出された。

今号では、木材需要の大部分を占める住宅建築において、川上から川下、つまり森林所有者からエンドユーザー（住まい手）までを視野に入れた取り組み、それと同時に林業関係者にも応分の付加価値が確保され、それが立木価格にまで還元されるような仕組みとして、産地と都市とをネットワークを結んで地域材を使った家づくりについて、3月に行われたシンポジウムをもとに産直住宅特集を組んでみた。



【報 告】「山と街を結ぶ安全な木の家づくりとは」シンポ 被災地で開催

去る3月30日、徳島・奈良・兵庫の3県の県木連の主催により、標記のシンポジウムが西宮市フレンテホールで開催され、被災市民を中心に約120名が参加した。

阪神大震災以来、木造住宅の安全性に対する関心が高まっているが、徳島・奈良・兵庫のそれぞれの現場からの家づくりの報告をもとに、木の家づくりについて考えていこうというもの。

徳島県からは「TSウッドハウス」の和田善氏と建築家の三澤康彦氏が杉の葉枯らし材に

よる家づくりの報告を行った。

奈良県からは、「やまとの家」の吉川一二三氏（奈良県建築協組）と建築家の三澤文子氏がメンテナンスを通じたネットワークづくりの報告を行い、建築後の維持・管理の重要性を述べた。

兵庫県からは、「ひょうご・ネットワーク『木の道』」の井口浩晃氏（兵庫県産木材製品開発研究会）と建築家の藤田宜紀氏が、山元と街が共生できるための新しい住まいづくりのシステムが必要と報告した。

【詳 細】パネルディスカッション「答えはもうでている」（大木研 野村隆哉氏）

続いて5名によるパネルディスカッションが行われた。冒頭には、コーディネーターの野村隆哉氏（大木研）が「答えはもうでている。つまり、産直住宅とは、林業家（山元）がもう人まかせには出来ない」と立ち上がったことを意味する。」と提起すると、各パネラーからは「都市と木材生産地との風通しを良くすることが必要。」（兵庫県柏原農林事務所 岡田茂）、「今、被災地では個性のないプレハブの展示場のような街並みになっている。」（住まい手 川田代氏）など現状を憂う声があがった。

市民運動の立場からは、「『産直』は産地直送の略ではなく、産地直結の意。産地からすれば、消費者直結のシステムのこと。山元が、ただ木を使ってくれというのではなく、生産者と消費者が対等の立場でなければ長くは続かない。それには、生産者が安心して安全なものを提供し、それに見合う見返りも当然必要となる。」（埼玉県生活クラブ生協 藤原陽子氏）と訴えた。また、大阪市立大学の生活科学部の土井正氏は「住宅の本質とは横棒を一つ取ると木質になる。木材は人と環境の折り合いを着けていくうえでは最適である。」と応えた。

産直住宅の動向

近ごろ、新聞雑誌でも取り上げるほど、今、「産直住宅がブーム」である。正確に言うならば「第2次産直ブーム」といったほうが良いかもしれない。

今回、取り上げた3県の事例などは、以前の「村おこしの」な産地主体型のものとは、少し性格が異なるものと思われる。

一番の違いは、組織形態こそ違うものの、都市部の建築家や工務店とのネットワークによる消費地主導型であること。これにより、都市部での活動の核ができ、従来型の産直が抱えていた問題点が解消された。

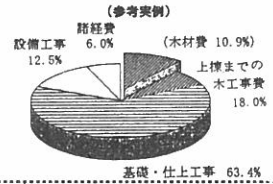
また、至近距離を活かしたボランティア活動やネットワークによる産地や住宅の見学会などによってこれらの活動に対する合意形成などを図っているのも新たな特徴である。

「産直」は安い？

流通を省くのみならず、当然安いだろうと考えるのも不思議でない。

しかし、実際は坪単価や工事費などは住宅の質によって大きく左右されるもので、そのうち「木材費」の占める割合は多くて10%程度である。

また、「木材費」も一般の市況と比較して驚くようなコストでもないようだ。



なぜ、産直か

産直住宅は単純にローコストを狙ったものではないらしい。では産直のメリットとはなにか。通常の流通でも銘柄を指定すれば産地材を使うことは可能である。「葉枯らし」や「乾燥材」も同様である。

しかし、それらは生産者にとって、既存の流通ではなかなか受入れられないものだったからである。かつて、関係者の話しに「誰が乾燥賃をみるのか」「葉枯らし材も市ではまともないと」といった消極的な意見を耳にしたことがあった。それらは流通の話であって消費者の意見ではなかった筈だ。

ひょうご・ネットワーク「木の道」の建築家の青砥聖逸さんは「私は安いと思います。産地と直接やりとりしているから規格品以外のものでも結構融通がきく。そのことを考えたら質・量で満足するはず。長い目でみたら合理化したスケールメリットも出てきますよ。」という。

産直とは、産地と消費者が直接結ばれていること。つまり、産地と消費者のニーズが一致してこそ、独自の流通システムが可能になる。このような動きは、数量的にも僅かではあるものの国産材復権の鍵を握るものとして期待したい。

ネットワークによる産直住宅の事例

名称	連絡先	備考
青ヒバの会	事務局 03 (3779) 0608	青森ヒバを使った家 昭和58年~
リンデンバウム遠野	榎リンデンバウム遠野 0198 (62) 4163	主に岩手県内中心、地域システム化を狙う
モクネット21	事務局 0185 (73) 5660	埼玉の生協が中心 産地は秋田スギ
木夢の会	創夢舎 0429 (73) 8788	埼玉、西川村(スギ)を使った家
台形集成材一座	ナンパホーム 0576 (32) 2116	独自の規格品(台形集成材)による家
家づくりネットワーク	事務局 03 (3715) 3585	山形県金山町とのネットワーク
徳島・木の家づくり協会	TSウッドハウス協組 0884 (44) 6834	葉枯らし材を使った家
「やまとの家」木の家GM N.W	奈良県建築組合 07442 (2) 5115	吉野スギとやまと大工による家。
ひょうご・ネットワーク「木の道」	産地側窓口 0795 (74) 1121	関西の建築家集団と丹波とのネットワーク
「東京の木で家を造る会」	事務局 0425 (95) 0048	家造りは山を見てから言葉を今春、発足

徳島すぎ TSウッドハウス協組

徳島杉(60~80年)の葉枯らし材を使った家づくり。施工方法にリレー方式を採用。

徳島県では明石海峡大橋の開通に先立ち、「3000日の徳島戦略」が策定され、その戦略の徳島県産木造住宅供給システムのひとつである。

リレー方式とは、産地の大工が構造躯体(建前)までを、都市側がその後の工事(造作仕上げ)と基礎工事をそれぞれ分担する。通常、これら相互の調整は建築家によって行われている。

「やまとの家」木の家GM NETWORK

吉野杉と大和大工(奈良県建築協同組合)の家づくり。

GMは神戸元気(G)村(M)からとったものである。

震災後、神戸、芦屋を中心にボランティア活動の一環で週末住宅相談を続けたことがきっかけで産地と建築家、都市とのネットワークが生まれた。

被災地では、復興都市型(狭小敷地対応)の住宅なども手掛けている。

ひょうご・ネットワーク「木の道」

丹波杉(人工乾燥)を使った家づくり。阪神間とは至近距離なので施工方法はリレー方式など自由に選択にできる。

平成6年に新日本建築家協会・近畿支部・住宅部会と産地の兵庫県産木材製品開発研究会が交流会を行い、「住まい手の顔が見える流通システムを作りたい」と提案されたのが始まり。

昨年、数棟を着工するなど、建築家を中心に都市部での組織力を活かしている。

木・person

きいー ばーそん



樹には望みあり

中川木材産業株式会社
代表取締役社長 中川 勝 弘

中川木材産業の前身は、江戸時代の寛文年間(1600年代中期)から和歌山県御坊で素材生産業を営んでいたのが始まり。先代の中川藤一前社長が大阪市大正区に「中川木材店」を開業。9年前の昭和63年、先代の急逝とともに長男の勝弘氏が社長に就任され現在に至る。

「環境のためにも木を使う必要がある。また、そのことを多くの人に伝えなければ意味がない。」という強い信念とともに、大学在学中に日本万国博覧会協会に職員として1年間勤務された経験などをいかし、ソフト重視の新たな企業展開を日夜模索されています。

中川木材産業株式会社
大阪府南河内郡美原町木材通1-11-13
☎ 0723(61)5501

木の本

住宅建築

5



住宅建築

「文化としての住まいを考える」を基本理念とし、日本の木造住宅を中心に編集されている建築の総合月刊誌である。

本書は建築の専門書であるが、木材や山のことにまでこだわっている。

また、震災後の木造住宅への信頼回復やその取り組み紹介など丁寧にとめられている。

豊富な写真、豊富な図面、見やすいスタイルで編集されており、専門以外の人々にも十分理解出来る雑誌であり、ぜひお勧めしたい。

編集 建築思潮研究所
発行 建築資料研究社
定価 2,400円

トピックス 101

波にのる!!

<http://www.>

このたび、丹波年輪の里では「木」に関するあらゆる情報を効率的に利用・伝達できるシステムの中継基地となることを目的として、インターネットサービスに接続しました。

秋頃までには、年輪の里ホームページを作成し「施設紹介」、「イベント案内」などの情報発信や「木の良さ」のPRなどを行います。また、専門的には森林総合研究所の林業・林産関係国内文献情報データベース(FOLIS)などからの情報を随時検索し希望者に提供する他、木のなんでも相談、新製品の紹介などを行います。

ホームページ完成までにはもう少し時間がかかりますが、まずは手始めとして、6月1日からインターネットから収集できる「木」に関する情報をできるだけ広範囲に集めて木の館ホールに展示します。

詳細については「お知らせ」のコーナーをご覧ください。

なお、兵庫県立丹波年輪の里
e-mailの宛先は次のとおりです。
wood@hk.sun-ip.or.jp

トピックス 102

sick house シックハウス

家やビルなど建物の中に入ると、目がちかちかしたり、頭が痛くなったり…。こういう経験をされた方はいませんか。

これが今問題になっている「シックハウス(病気の家)症候群」と呼ばれているものです。症状としては、感覚器障害(目、鼻、喉)や精神障害、神経障害(頭暈、眩暈)、皮膚疾患など様々で、免疫反応で調べのつくアレルギーよりも診断しにくいといわれています。

これは、合板の建具や家具、ビニールクロスといった新材などから揮発する化学物質が原因とみられ、壁装材料のメーカーなどでは新たな製品開発に取り組み、大きなビジネスチャンスと考えられています。

しかし、「新材材」を「無垢の木材」に取り換えれば、そうした心配は当然なくなります。木の内装材、板等良いものが数多くありますので一度検討されてみてはいかがでしょうか。



お知らせ

○研修会「情報化の時代をむかえた林業・木材産業」 ーインターネットを利用した木材情報の発信ー

林業・木材産業をめぐる厳しい環境、さらに他産業の著しい情報化の中にあってインターネットを利用して自らが情報発信を行っている中川社長を講師に招き、実践者としての意見や考え方をお聞きします。

講師 中川木材産業株式会社
代表取締役社長 中川勝弘(本号の木・person参照)

とき 平成8年6月7日(金) 13:30から
ところ 丹波年輪の里「木の館」多目的ホール



○企画展示「インターネットからの『木』の情報」

インターネット上で繰り広げられる木に関する情報のホームページを内外を問わず展示紹介します。

とき 平成8年6月1日(土)から6月16日(日)まで
ところ 丹波年輪の里「木の館」多目的ホール

編集後記

平成8年度の第1号をお届けします。林産指導課のスタッフは昨年度と変わりませんが、林産だよりは2頁を特集記事にするなどスタイルを変更しました。本年度もご愛読の程よろしく願います。(ふじもと)

3月末に地球に最接近した百武彗星は実に20年ぶりの大彗星となりました。さらに来春には超巨大なヘル・ポップ彗星がやってきます。人間界においてもこのような大物が次々と出現することを望みたいものです。(うめがき)

最近、お腹のあたりが気になり、今春、MBを購入。車通勤をやめ、自らの体質改善に努めています。木材流通の体質改善の一例として産直住宅を特集しましたが、いかがでした。(たかはし)

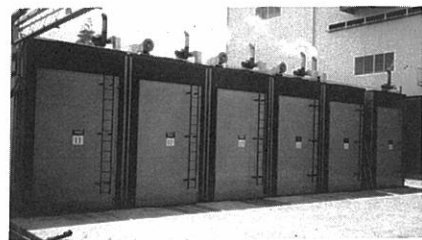
CMコーナー

超省エネタイプ高温シリーズが新装備で登場

超高温高速タイプSK式 全自動木材乾燥機

(PAT.NO.1542158号, PAT.NO.1748775号, PAT. PEND. NO. HO6-038024号)

超省エネタイプ



本機の特長

1 安定した乾燥仕上り

気密性に優れた機内に、新築独自の吸排気ダクトファンを配置し、かつ、強力な軸流ファンに依って、室内の強気流を常に一定に保ち、安定した乾燥の分配を行ないますので、どこでも均一で安定した仕上りをお約束致します。

2

簡単な操作

温湿度、風向き反転等、全て全自動制御ですのでスイッチをONにするだけで、あとは緻密に設計された制御盤が運転します。

3

高級乾燥

自動調湿装置に依り、乾燥ムラ、割れ、狂い、応力の無い乾燥が出来ます。

4

超気密性と超耐久性!!

内部壁面は、全て、ステンレス(SUS304)の全溶接仕上げですので、今迄に類をみない、気密性と耐久力を誇っております。

5

優れた断熱性

本機は、160℃の高温高湿に耐える有機断熱材を使用しておりますので、吸湿して、断熱性が落ちる様なことはございません。

6

超省エネルギー!

排熱利用除湿型熱交換器(特許・オブション)をセッティングする事に依り、ランニングコストを大巾に削減致します。

<製造元>

株式会社新柴設備

<代理店>

兵庫県水上郡水上町石生157
株式会社 田村機械製作所
TEL(0795)82-6145-6817